

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80 主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について

追加型投信 / 内外 / 資産複合

主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について

弊社ファンド「三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80」(当初設定日:2000年12月20日、追加型証券投資信託)の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社から、「ラッセル 日本株式マザーファンド」(「ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)」の主要投資対象)において、2012年10月5日付で運用会社構成を一部変更し、これまでマーケット・オリエンテッド型運用を担当しておりましたファンネックス・アセット・マネジメント株式会社に替えて、ニューメリック・インベスターズ・エル・エル・シー(以下「ニューメリック」)を採用し、また、バリュー(割安)型運用を担当するJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下「JPモルガン」)を新たに採用すると同時に目標配分割合を変更するとの連絡がありました。

「ラッセル 日本株式マザーファンド」は今後、グロース型1社、バリュー型4社、マーケット・オリエンテッド型1社の計6社体制で運用を行ってまいります。

以下「ラッセル・インベストメント株式会社からの連絡内容」において、今回の運用会社構成変更の目的につきまして、ご説明いたします。

ラッセル・インベストメント株式会社からの連絡内容

運用会社構成変更の目的

今回の運用会社構成の変更は、マーケット・オリエンテッド運用部分をより高く評価する運用会社に入れ替え、さらに、バリュー運用部分を一段と強化することによって、ファンドとして安定した超過収益の獲得を目的としています。

新たに採用するマーケット・オリエンテッド型のニューメリックは、クオンツ運用に特化したブティック型運用会社です。運用モデルの開発に優れたリサーチ陣容や日本株市場に習熟したポートフォリオ・マネージャーを備え、バリュエーションや業績予想修正、収益構造等の有効なファクターをバランス良く的確に捉える運用モデルを活用して超過収益の獲得を目指します。ポートフォリオ特性は特定のスタイルに偏らず、安定的にファンドへ貢献することを期待しています。

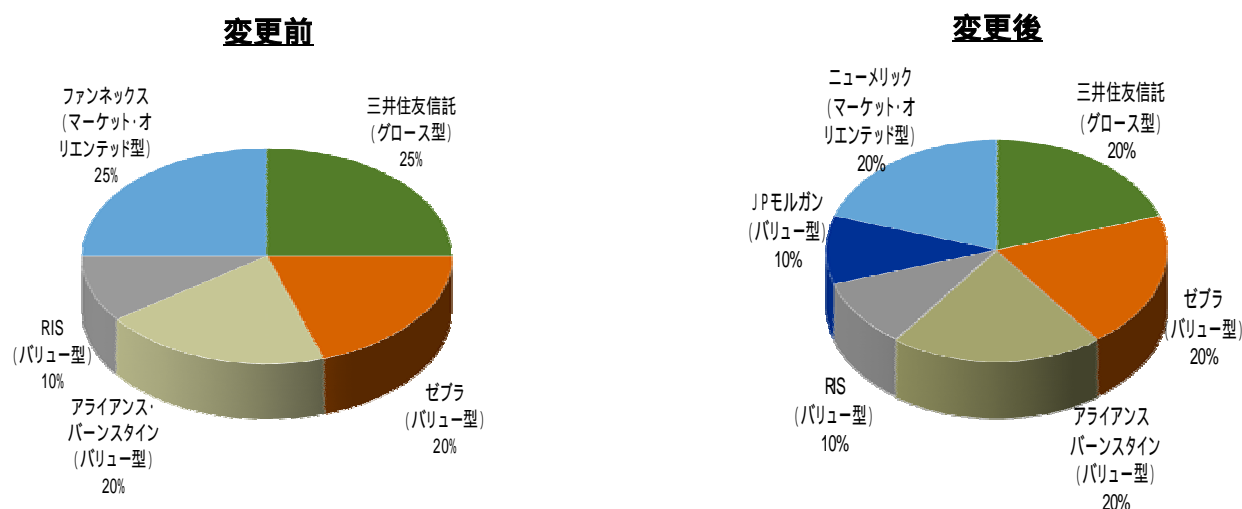
同時に採用するバリュー(割安)型のJPモルガンは、徹底したバリュー投資哲学とファンダメンタルズ分析に基づいた配当割引モデルを活用する規律だった投資プロセスが特徴です。逆張りのアプローチで、ポートフォリオ特性はボラティリティ(変動性)やベータ(市場の変動に対する感応度)、財務レバレッジが高い傾向にあり、ベンチマークとの乖離も比較的大きいものの、ボラティリティが低いゼブラをはじめとする既存の運用会社との補完効果も高く、バリュー運用を一段と強化することが期待されます。

ラッセルの運用会社調査チームはニューメリックとJPモルガンを高く評価しています。今回の変更により、当ファンド全体のリスク特性に大きな影響を与えることなく、安定した超過収益の獲得を目指します。

ニューメリックおよびJPモルガンの概略

ニューメリックは、1989年に設立され、米国マサチューセッツ州ボストンを拠点とし、運用資産総額は約97億ドル(2012年3月末現在)です。

JPモルガンは、「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループの日本拠点です。当グループは約40年におよぶ日本株式の運用実績があり、当グループの運用資産総額は約103兆円(2011年12月末現在)です。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80 主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について
各運用会社への目標配分割合（ラッセル 日本株式マザーファンド）


今回の運用会社構成の変更は、ラッセル・インベストメントグループの継続的な運用会社調査の結果に基づくもので、マルチ・マネージャー・ファンドならではの特徴の一つです。

ラッセルのマルチ・マネージャー・ファンドでは、皆様の投資目標の実現を図るため、今後も状況の変化等に応じて、適切な運用会社構成の変更等を実施してまいります。

以上

Copyright © 2012. Russell Investments. All rights reserved.

当資料中「ラッセル・インベストメントグループ」、「ラッセル・インベストメント」及び「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニー及びその子会社等の総称です。

当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。ラッセルによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部又は一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 日本株式マザーファンド>

ラッセル 日本株式マザーファンドは、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュート型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型
三井住友信託銀行(日本)

三井住友信託銀行のグロース株式運用は、短期的な企業業績の変化をきめ細かく調べ、企業が長期的な成長過程にあるかどうかを的確に見極めていく投資プロセスが特徴です。アナリストチームが詳細に調査分析し、ポートフォリオ・マネージャーが企業のビジネス・モデルや業界環境、製品やサービスの競争力、参入障壁、競合企業の動向などの観点から成長企業を選別してポートフォリオを構築します。

バリュート型
ゼブラ・キャピタル・マネジメント(米国)

ゼブラは、流動性プレミアム(一般的に取引量が少ない銘柄はその割安に放置される傾向にあります。)の大きい銘柄が長期的に高いリターンをもたらすという考えに基づき、株式相場での流動性プレミアムを的確に捉える独自の定量分析を行います。構築されるポートフォリオは、低PBR(株価純資産倍率)や中小型株寄り等の特性を持ちます。

バリュート型
アライアンス・バーンスタイン(日本、香港)

アライアンスのバリュート株式運用は、綿密でかつ質の高い企業調査とクオンツ・モデルを併用し、現在の株価と本質的な企業価値の差を捉えることにより超過収益の獲得を目指すというものです。クオンツ・モデルを用いた業種内およびグローバル・セクター間での相対バリュートーション(投資価値)比較により銘柄を選別、更にアナリストが詳細な調査に基づき長期の収益およびパフォーマンスを予想、割安に放置されている銘柄を見出します。

バリュート型
JPMorgan・アセット・マネジメント(日本)

JPMorganのバリュート株式運用は、徹底したバリュート投資哲学とファンダメンタルズ分析に基づいた配当割引モデルを活用する規律だった投資プロセスが特徴です。逆張りのアプローチで、ポートフォリオ特性はボラティリティ(変動性)やベータ(市場の変動に対する感応度)、財務レバレッジが高い傾向にあり、ベンチマークとの乖離も比較的大きくなります。

バリュート型
ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)

ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にファンドの一部についての運用を行います。当該部分においては低PBR(株価純資産倍率)銘柄を中心としたポートフォリオ(ディープ・バリュート)を構築することにより、ファンドの低PBR特性を補強します。

マーケット・オリエンテッド型
ニューメリック・インベスターズ(米国)

ニューメリックは、運用モデルの開発に優れたリサーチ陣容や日本株市場に習熟したポートフォリオ・マネージャーを備え、バリュートーションや業績予想修正、収益構造等の有効なファクターをバランス良く的確に捉える運用モデルを活用します。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメント グループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

9ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 外国株式ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 外国株式ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 外国株式マザーファンド>

ラッセル 外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KOKUSAI(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。グロース型、バリュー型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型
マッキンリー・キャピタル・マネジメント(米国)

マッキンリーは、株価のモメンタム、企業収益の伸び、および収益面でのポジティブ・サプライズ(予想を上回る決算発表等)に注目する「グロース(成長)型運用」を行います。同社では、まず40,000以上の銘柄を対象に定量的な分析を行うことによって銘柄の絞り込みを行います。この結果に定性的な分析を加え、最終的には45 - 60銘柄程度から成るポートフォリオを構築します。

グロース型
サステナブル・グロース・アドバイザーズ(米国)

サステナブル・グロースは、長期的に継続して収益成長が期待できるビジネスを有する銘柄をボトムアップ・アプローチに基づいて選別する投資プロセスが特徴です。競合他社比の優位性(価格、ブランドなど)やグローバル市場での確実な収益獲得等を重視して銘柄を選択し、バリュエーションも考慮した上で、比較的少量の銘柄に長期的な視点で集中投資します。また、ベンチマークをあまり意識しない運用を行うため、同社のポートフォリオ特性はベンチマークから大きく乖離することがあります。

バリュー型
ハリス・アソシエイツ(米国)

ハリスは、定性および定量分析に基づいて割安な銘柄を発掘し、それらに長期的な観点から投資を行います。具体的には、今後収益を生み出すことが期待でき、かつ株主を意識した経営を行っている割安な銘柄を投資対象とします。ベンチマークをあまり意識しない運用を行う結果、同社の構築するポートフォリオの国別およびセクター別の配分は、ベンチマークから大きく乖離することもあります。1銘柄、1セクターへのアクティブベットの幅は厳格にコントロールされます。

マーケット・オリエンテッド型(ディフェンシブ)
ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)

ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にファンドの一部についての運用を行います。当該部分においてはラッセルが開発したラッセル・グローバル(除く日本)ディフェンシブ株インデックスを構成する時価総額上位50位の銘柄を抽出して、時価総額に応じたポートフォリオを構築することにより、ファンドのディフェンシブ性(ベータ(市場の変動に対する感応度)およびボラティリティ(変動性)が低い状態)を補強します。

マーケット・オリエンテッド型
EMEFES・インスティテューショナル・アドバイザーズ(米国)

MEFESはファンダメンタルズ分析に重きを置いた銘柄選択を行います。銘柄選択プロセスは、各国に配されたアナリストが各国の事情を加味した企業分析を行った後、当該アナリストから成るグローバル・セクター・チームにおいて国・地域を越えた同業他社との相对比较を行うことによって推奨銘柄を選定、これを基にポートフォリオ・マネージャーが相対的に魅力度の高い銘柄を選択するというものです。ポートフォリオは、緩やかなグロース傾向を持ち、企業規模は市場平均よりやや小型寄りとなります。

マーケット・オリエンテッド型
アローストリート・キャピタル(米国)

アローストリートはグローバル株式運用における豊富な経験を生かし、多角的なクオンツ型アプローチにより世界の株式市場に存在する魅力度の高い銘柄を探し出します。同社の主な超過収益の源泉は個別銘柄選択ですが、国やセクターの持つ影響も重視しており、国およびセクターで分けたバスケット毎に投資家行動などに起因する価格の歪みを捉えています。こうした「マトリックス・アプローチ」と呼ばれる手法は同社の調査・運用プロセスの特徴となっており、グローバル株式運用会社としての強みともなっています。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

・三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本債券ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 日本債券ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 日本債券マザーファンド>

ラッセル 日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NOMURA-BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

広範囲型
りそな銀行(日本)

りそな銀行はデューレーション(金利感応度)戦略、イールドカーブ(利回り曲線)戦略、債券種別選択、個別銘柄選択といった様々な分野で優れたスキルを有しています。金利戦略においては、国内のみならず、海外にも幅広い視野と分析能力を有し、マクロ経済から需給まで精緻な調査活動を行っています。クレジット戦略においても、トップダウン的な観点からの債券種別選択と徹底した企業の信用調査による個別銘柄選択とをバランスよく行います。

広範囲型
DIAMアセットマネジメント(日本)

DIAMは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定した超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や需給分析に強みがあり、その分析能力を基に極めて短期的なポジションを機動的に数多く取ることで、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用力分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユニバースの拡充にも積極的です。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメント グループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

9ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

・三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 外国債券ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし) (適格機関投資家限定)

ラッセル 外国債券ファンド Aコース(為替ヘッジあり) /
Bコース(為替ヘッジなし) (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、
下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 外国債券マザーファンド>

ラッセル 外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や、高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

ベビーファンドのベンチマークはそれぞれ下記の通りです。

Aコース(為替ヘッジあり):シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

Bコース(為替ヘッジなし):シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

Aコースは原則として為替ヘッジ(運用会社:ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ)を行い、
為替変動リスクの低減を図ります。Bコースは原則として為替ヘッジを行いません。

マクロ・バリュー型

コルチェスター・グローバル・インベスターズ(英国)

コルチェスターの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安感の強い国の債券および通貨を発掘するというものです。割安であるか否かの判断は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性判断を加味することにより国別および通貨別の配分が決定されます。

一般債重視型

ビムコ(米国)

ビムコの外国債券運用の特徴は、多様な収益源泉に幅広く分散投資を行うことです。国債以外の債券(一般債)への投資を得意としており、モーゲージ証券の運用にはとりわけ優れています。その一方で通貨変動からはあまり大きな影響を受けないような運用を行います。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメント グループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われられない場合があります。

9ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

内外の株式および公社債を実質的な主要投資対象とし、「資産区分の分散(マルチ・アセット)」に加え「運用スタイルの分散(マルチ・スタイル)」、「運用会社の分散(マルチ・マネージャー)」を行うことにより、各資産の指数を合成したベンチマークを中長期的に上回る投資成果をめざします。

ファンドの特色

- ・ファンドは投資信託証券を主要投資対象とするファンド・オブ・ファンズ(F.O.F)です。株式や公社債等に直接投資するのではなく、複数の投資信託証券に投資することにより、同時に複数の投資信託を購入したと同じ効果が得られます。
- ・投資信託証券は、内外の株式および公社債(これらを投資対象とするマザーファンドを含みます。)を主要投資対象とします。
- ・主要投資対象である投資信託証券は、ラッセル・インベストメント株式会社が設定・運用を行います。ファンドは投資信託証券への投資を通じての「資産区分の分散(マルチ・アセット)」に加え、投資信託証券はマザーファンドへの投資を通じて、「運用スタイルの分散(マルチ・スタイル)」、「運用会社の分散(マルチ・マネージャー)」の運用アプローチを採用し、収益の安定化をめざします。
- ・運用にあたっては、下表の比率で組み合わせた指数を合成ベンチマークとし、中長期的に当該指数を上回る投資成果をめざします。

	MV20	MV40	MV80
配当込みTOPIX	15%	30%	55%
MSCIコクサイ インデックス(除く日本 円換算ベース)	5%	10%	25%
NOMURA - BP総合指数(短期金融資産(有担保コール翌日物)1%を含む)	40%	30%	10%
シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)	35%	25%	5%
シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	5%	5%	5%

< 主な投資制限 >

- ・株式への直接投資は行いません。
- ・投資信託証券への投資割合に制限を設けません。
- ・外貨建資産への直接投資は行いません。

< 配分方針 >

- ・年1回の決算時(12月12日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

市場リスク

(価格変動リスク)

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

(為替変動リスク)

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。なお、「ラッセル 外国債券ファンド Aコース(為替ヘッジあり)(適格機関投資家限定)」の組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

9ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
投資リスク
その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

また、ラッセルで投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においてもラッセルの投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

手続・手数料等
お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
購入代金	販売会社の定める期日までに販売会社指定の方法でお支払いください。
換金単位	1万口単位または1口単位 販売会社の取扱いにより単位が異なります。 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額 - 信託財産留保額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた購入・換金のお申込みを当日のお申込み分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(2000年12月20日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。
決算日	毎年12月12日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上、株式投資信託として取り扱われます。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
 販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会(社)投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80

手続・手数料等

ファンドの費用・税金
・ファンドの費用

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

お客さまが直接的に負担する費用

購入時

購入時手数料	購入価額 × 2.1% (税抜 2%) (上限) 販売会社にご確認ください。
--------	--

換金時

信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額 × 0.1%
---------	---------------------------------

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中

	MV20	MV40	MV80
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額 × 年0.735% (税抜 年0.7%)	純資産総額 × 年0.8085% (税抜 年0.77%)	純資産総額 × 年0.966% (税抜 年0.92%)
投資対象とする投資信託証券	年0.798% (税込) 程度	年0.882% (税込) 程度	年1.0395% (税込) 程度
実質的な負担(注)	年1.533% (税込) 程度	年1.6905% (税込) 程度	年2.0055% (税込) 程度

(注) 投資対象とする投資信託証券における料率を含めた実質的な信託報酬率(概算値)を算出したものです。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性があることから、実質的な料率は変動します。したがって事前に固定の料率、上限額等を表示することはできません。

その他の費用・手数料	売買委託手数料等を信託財産からご負担いただきます。 これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
------------	--

運用管理費用(信託報酬)は毎日計上され、毎計算期間の6ヵ月終了日および毎決算時または償還時に信託財産から支払われます。その他の費用・手数料は、その都度信託財産から支払われます。

購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料(国内において発生するものに限り、)には消費税等相当額が含まれます。

お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

・税金

個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認ください。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料です。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮してありませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

お客さま専用
フリーダイヤル 0120-151034
受付時間 / 9:00 - 17:00 (土・日・祝日・12月31日 ~ 1月3日を除く)

< オフィシャルサイト > <http://www.am.mufig.jp/>
< メールサイト > <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
基準価額・分配金をメール配信 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

配当込みTOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。配当込みTOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、配当込みTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、配当込みTOPIXの算出もしくは公表の停止または配当込みTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCIコクサイ インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要国で構成されています。MSCIコクサイ インデックス(除く日本 円換算ベース)は、MSCIコクサイ インデックス(除く日本 米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCIコクサイ インデックスはMSCI Inc.の財産であり、「MSCI」はMSCI Inc.のサービスマークです。

NOMURA - BPI総合指数とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA - BPI総合指数は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)ならびにシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)とは、シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均し指数化した債券インデックスです。

(注) 合成ベンチマークの計算にあたっては、委託会社において、ファンドにおける組入資産・為替の評価時点にあわせて計算を行います。

販売会社情報一覧表

ファンド名称:三菱UFJ MV20/MV40/MV80

商号	登録番号等	加入協会
株式会社 三菱東京UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	日本証券業協会 / 一般社団法人金融先物取引業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	日本証券業協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 / 一般社団法人金融先物取引業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会